

【マニュアル作成における変更履歴】

アーケテックコム株式会社で、マニュアル作成と翻訳を行っています。豊原 信です。



ウェブサイト：
<http://arc-tec-com.com>

Tel : 050-6864-6201
Fax : 050-6864-6202
E-mail : m.toyohara@arctecom.jp

トレーサビリティの活用

こんにちは。

今月もマニュアル作成のお話です。その中で、作業途中での変更回数が多い場合の作成進捗管理の例を紹介し、それと恒例の「勝手応援メッセージ」を紹介します。

18種類以上の資料

最初は、多くても3種類の資料をドッキングしてマニュアルに仕上げ、ポータルサイトで配信という内容で検討を開始しました。

1回目の粗原稿での校正結果は、ほとんどの内容が差し替えとなりました。合計18種類の資料を繋ぎ合わせ、かつ内容を更新して作成する要望が、クライアント様から出てきました。さてどうするか、悩みました。完成しているもの、データだけのものなど資料によって統一されていませんでした。

『目的』の変更

A4サイズで200ページ以上のマニュアルを1か月以内で完成させなくてはなりません。『目的』

を「最低限の検索機能を持ち、かつ読み手が違和感を持たないマニュアルにする。」に変更しました。クライアント様と、内容のベクトル合わせを徹底して行う方法を取ることにしました。弊社は、ファクトリー・オートメーション装置のソフト操作マニュアル作成で、頻繁に改訂・変更が入る際の、作成進捗管理方法を構築しています。今回は、この方法を使用することに決めました。

トレーサビリティの活用

マニュアル作成のすべての工程で、このトレーサビリティの考え方を適応して作業を進めました。まずディレクション、次に粗原稿のライティング、イラスト作成、編集作業です。マニュアルの内容が変更された箇所すべてのトレーサビリティなデータを保存しました。結果、粗原稿は作り直しを5回行いましたが、途中でデータが入れ違いになることはありませんでした。狂牛病対策から考え出されたこの方法は、今回もマニュアル作成で十分な成果を出せました。

極めつけの編集

読み手に違和感を持たせないマニュアルに仕上げる方法です。一つ目は、記述内容が、目次で必ず検索でき、推測が可能なタイトル階層を設定しました。二つ目は、ページ紙面のレイアウトを統一し、さらにタイトル階層ごとに、文字フォントとサイズを統一して、マニュアル全体の違和感を無くしました。

品質確保の工程

このように、多数の既存資料やデータを寄せ集めて、何度も変更が入る場合は、マニュアルとして完璧な品質を作り上げるのに、このトレーサビリティの考え方が活用できることが実証できました。しかも短期間で完成させることができました。当然ですが、作成経費もクライアント様の満足をいただけるレベルになっています。

ご参考にしていただければ、ありがたいです。

今月の応援メッセージです。

自分の生きる道を自分で決める！

これだけ激しく変化をしている世の中において、自分に合った道を探すのは大変です。

例え、自分に合った道を探せても、それは数年で変わって行ってしまいます。

「こんなはずじゃなかった」ということの連続と言ってもいいでしょう…

「激しい変化をする世の中」とは、そういうものです。

「こんなはずじゃなかった」は、当たり前のことになります。

バイオテクノロジーの技術革新で、過去数万年掛けて起きた変化が数十年で起きてしまいます。

AIの進展で、数百年掛けて構築された職業区分が、数年で変化することを余儀なくされます。

自動運転の導入も、産業の軸ともいえる自動車業界を、数年でまったく違う業界構造に変化させていくでしょう。

分かっていることは、激しい変化をする世の中になるということです。

だから、世界中が恐怖を抱き、防衛本能が働き、内向きになり、狭い閉鎖的な状況を選択するのかもしれませんが。

「どの道を進んだらいいのかを探しても、正解は無い」というの

が、激しく変化をする世の中での正解なのでしょう。

だから、自分の生きる道を探すのでなく、決めるのです。

どのように変化しても、変化していくことを前提に、決めていくのです。

変化したら、変化したで、それに合わせて決めて行けばいいのです。

いつも何時も、決めていく自分さえ準備できれば、後は大きく変化する世の中で、決めていけばいいのです。

「どの道を進んだらいいのか」を探すのでなく、「どの道を進んでも、自分で決めていく」と決めるのです。

今から、「決めていく自分」の準備をしてください。

決めていく判断基準は、「人として正しいこと」とか「世のため、人のため」というような、不変の判断基準がいいと思います。

もし、自分が恐怖に捉われていたり、内向きになっていたり、他人を疑ったり、自分さえよければとなっていたり、変化についていけないと思っても、それは当り前の反応が出ているだけで、正常な姿です。今という環境においては、素直な姿といってもいいと思います。

でも、あなたは、そのもう一つ向こうの「決めていく自分」を演じていってください。

どんなに激しく変化していく環境の中でも、決めていく自分を演じるのです。

あなた自身のため、そして、あなたの周りの人のため、世のため人のために…

それが、あなたのお役目です。

中村天風や稲盛和夫氏は「世のため人のため」に行うことは、人間の本質的な生き方と説きます。

京セラ創業者の稲盛和夫氏が教えられている次の公式に当てはまります。

【人生の成果／仕事の成果】＝
【考え方】×【熱意】×【能力】

【考え方】は-100～+100

【熱意】【能力】は0～+100

豊原 信